

● 第3章 ●

実践・指導事例



1 普遍的な視点からのアプローチ



(1) 多様性と包摂性の尊重 <小学校 特別の教科 道徳>

◆指導事例 (第1学年 特別の教科 道徳)

1 主題名

だれとでも なかよく C (11) 公正、公平、社会正義

2 教材名

いっしょに あそぼう (教育出版 しょうがくどうとく①)

3 題材について

本教材は、日常生活の何気ない会話で一人の友だちを仲間外れにしていたことに気付かされた話で、子どもたちにとっても身近な内容であり、共感しやすい。また、「約束していたからだめ。」「仲間外れにされたら悲しい。」という登場人物に想いを重ねながら、「わたし」「ゆきちゃん」「はるかちゃん」のそれぞれの気持ちを考えることを通して、どの子も嫌な気持ちにならない方法や仲間外れにつながらない方法を考えることができる。

仲間外れにされた時のはるかちゃんの気持ちや、本教材のわたしのよう、意図していなくても仲間外れをしてしまう側の気持ち、友だちのことを思って望ましい行動をするゆきちゃんの気持ちを問い、どうして仲間外れがいけないのか、仲間外れになるとどのような気持ちになるのか、そのような嫌な気持ちにならないようにするためには何が大切かを考える。

その後、役割演技に取り組み、誰とでも仲良くできた時の気持ちのよさを実感させることで、日常生活でも分け隔てなく接しようとする道徳的実践意欲を育みたい。

なお、学級の実態によっていじめが実際にある場合は早急に個別の対応が必要であり、そのような実態のある学級では役割演技がいじめを増長させるおそれもあり、被害者の心の傷を大きくさせかねないことなども考慮する必要がある。

4 本時のねらい

・仲間はずれについて考えることを通して、誰とでも仲よくすることの大切さに気づき、みんなと仲よくしていこうとする実践意欲を育てる。

5 評価の視点

道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめる	道徳的諸価値の理解を基に多面的・多角的に考える	道徳的諸価値の理解を基に自己の生き方についての考えを深める
・普段から誰とでも仲よくしているか、相手を傷つけたり、嫌な思いをさせたりしていないかと、自分を見つめている。	・仲間外れをしないことの大切さに気づき、誰とでも仲良くするためにはどうしたらよいか、様々な視点から考えている。	・仲間外れをしないでみんなと仲良くすることの大切さを理解し、誰とでも仲良くすることについて、自分との関わりで考えている。

6 人権教育の視点

社会的包摂の視点から、立場によって考え方や感じ方が違うことを自覚し、他者理解を深めることは重要である。本教材を通して日常生活の中で声をかけたり助け合ったりする包摂的な行動を実践できる態度を育てることができるように工夫する。

また、仲間外れに遭った人の気持ちに寄り添いながら、自他を尊重し合う人間関係の醸成を目指すとともに、相手の立場に立って物事を考え共感し、互いによりよく生きようとする態度を養う。

7 本時の指導

(1) 準備物

- ・ワークシート
- ・アンケート結果

(2) 学習の展開

	学習活動	児童の反応	指導上の留意点 人権教育の視点
導入 (5分)	1 アンケート「普段遊ばない友だちを誘ったことはありますか？」の回答を見て考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ある ○人。 ・ない ○人。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人が特定されないように、配慮して進める。
みんなとなかよくすると、うれしい気持ちはどんなに増えるのだろう			
展開 (35分)	2 「いっしょにあそぼう」を読んで、わたしの気持ち、ゆきちゃんの気持ち、はるかちゃんの気持ちを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・わたしの気持ち ・はるかちゃんの気持ち ・ゆきちゃんの気持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間外れにしたつもりはないのに言われた。 ・先に約束していたから、二人で遊びたい。 ・また今度あそべばいいと思った。 ・悲しい。 ・寂しい。 ・嫌な気持ちになる。 ・なぜ仲間に入れてくれなかったのか。 ・はるかちゃんがかawaiiそう。 ・わたしがいじわる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良しの友だちと遊びたかった私の気持ちも共感的に捉えられるようにする。 ・3人の考え方から、切り返しやゆさぶりをかけながら、多面的に捉えるようにする。 ・一人でいる友だちに対して、その友だちの立場になって考えられるように、仲間外れなのか一人でいても大丈夫なのかの違いが何なのか問い返す。

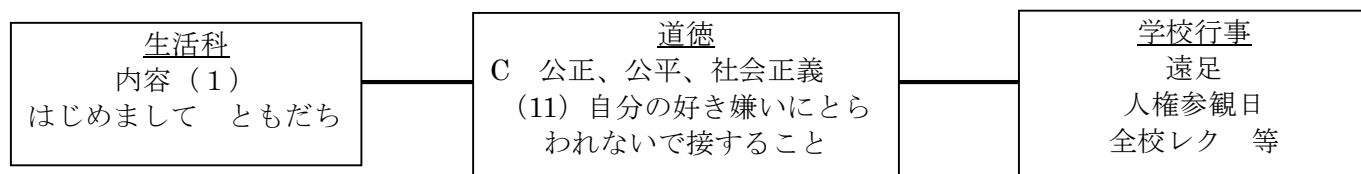
	<p>3 これからのわたしの行動を考え、仲間外れにしない方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班での役割演技 ・全体で意見交流 	<p>(自分：誘う人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が喜んでくれたから、誘ってよかった。 <p>(誘われた人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘ってもらえると、うれしい。 <p>(周りの人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も声をかけてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「誘う人」「誘われる人」「周りの人」の立場を考慮されるよう、複数回役割演技ができるようにする。 ・相手の立場に立った行動をすることが大切なことを伝える。
<p>終末 (5分)</p>	<p>4 誰とでも仲良くすることの大切さについて今日の学習を含めて、振り返りを書く。</p>		

8 教科等横断的な取組例

【知識的側面】

【価値的・態度的側面】

【価値的・態度的側面、技能的側面】



(2) 多様性と包摂性の尊重 <高等学校 公民>

◆指導事例（第1学年 公共）

1 単元名

公共の扉「公共的な空間を作る私たち」

2 単元について

本事例は科目の導入にあたるため、生徒が「公共」の学習の見通しを持ち、意欲的に学習に取り組むことができるように校内の自治的活動や現実社会の具体的課題を題材に設定している。自らの体験の振り返りや具体的事例の分析を通じ、事実や根拠に基づく多角的・多面的な思考を促し、多様な利害や価値観が対立する場面において、合意形成を図ることの意義を考察させる。また、この過程で、他者への傾聴と自らの主張の論理的な説明という対話の継続が、参画の一步であることを実感させる。これにより、集団の一員としての役割を果たすことが、持続可能な社会の形成や課題解決につながることを体系的に理解できる単元構成としている。さらに、特別活動（ホームルーム活動）と往還させることで、学びに実効性を持たせている。

3 単元の目標

公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を探求する活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

【知識及び技能】

- ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

4 単元の指導計画（3時間）

第一次：事例①から考える（同調と共感）・・・・・・・・・・1時間

第二次：事例②から考える（正当性と排除）・・・・・・・・・・1時間 [本時]

第三次：公共的な空間を作る私たち（対話と合意形成）・・・・・・・・・・1時間

※第四次 ホームルーム活動「学校における「共生」への提言書を作成」

（生徒総会前 LH として実施）

5 単元における問いの構造図

【単元を貫く問い】背景や考え方が違う私たちが、社会に参画する自立した主体として公共的な空間を共につくるには、何が必要か。



←第一次：私たちはなぜ空気を読むのか。

←第二次：公共の場（施設）から、特定の対象やグループを追い出すことは許されるのか。

←第三次：価値観がぶつかったとき、多数決や我慢に頼らず「第3の解決策」をどう見つけるか。

←第四次（LH）：私たちの学校を「共生」に近づけるために、私たちは何をどう変えるべきか。

「公共での学びを踏まえて、校則、施設、行事、日常の関わりについて『私たちの学校を「共生」に近づけるための解決策』を提言書にまとめ学校へ提出」

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であることを理解することなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。</p>	<p>・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

7 人権教育の視点

共生社会の実現に向け、他者との差異を認め合いながら、すべての個人が尊厳を持って社会に参画できる包摂的な社会の在り方を模索しようとする意欲や態度を養う。

8 本時の指導（2／3時）

（1）本時の目標

- ・公共的な場における対立する諸価値を多角的に考察し、個人の尊厳を基本とした社会の形成という視点から、公共の在り方について自らの考えを論理的に構成・表現する。

【思考力・判断力・表現力等】

（2）本時の評価規準

- ・公共的な場における対立する諸価値を多角的に考察し、個人の尊厳を基本とした社会の形成という視点から、公共の在り方について自らの考えを論理的に構成・表現している。

【思考・判断・表現】

※本時の評価は「●学習改善につなげる評価」とし、次時の評価を「○評定に用いる評価とする」

(3) 学習の展開

	学習活動等	指導上の留意点等 (人権教育の視点)	評価規準等 (評価方法)
導入 (5分)	1 「排除アート」の写真(公園のベンチ)を見て、なぜこのような形をしているのかについて考え、意見交換を行う。	○公共空間における「誰のためのデザインか」ということに留意して形の意味を考えるように伝える。	
本時の問い: 公共的な場(施設)から、特定の対象やグループを追い出すことは許されるのか。			
展開 (35分)	2 「排除アート」に賛成、反対の立場に分かれて、それぞれの立場を支持する意見を考える。 (個人→ペア) 3 異なる立場のペアとグループを組み、それぞれの立場から相手ペアと討論を行う。 (グループ) 4 3で行った討論を基に、「公共的な場(施設)から、特定の対象やグループを追い出すことは許されるのか」について、3で話しあったグループ内で意見交換を行う。 (グループ)	○賛成・反対については本人の意見に関係なく割り振りを行う。 ○相手の意見を論破することにこだわるのではなく、相手がそう考える理由についても考え、 <u>共生のための対話という視点を持つように伝える。また、対話を通して思考を広げ、深めていけるよう机間指導の中で支援する。</u> ○「 <u>排除</u> 」が差別の助長や、 <u>社会的孤立を生む可能性について触れ、社会で生きる様々な人たちの立場に思いを巡らせるよう留意する。</u>	●公共的な場における対立する諸価値を多角的に考察し、個人の尊厳を基本とした社会の形成という視点から、公共の在り方について自らの考えを論理的に構成・表現している。 【思考・判断・表現】 (発言・記述)
まとめ (10分)	5 本時の問いに対する振り返り(自分の意見)を記入する。 6 全体発表(代表者)	○「排除か受容か」の二択ではなく、誰もが排除されないための第3の解決策が必要であるということに思っていたことが、次時の内容につながっていくことから、そうした視点のある記述を選び、全体に共有しておく。	

(3) コミュニケーション技能 <中学校 国語>

◆指導事例 (第2学年 国語)

1 単元

立場を尊重して話し合おう ～討論で視野を広げる～

2 単元について

本教材は、「それぞれの立場から考えを述べ、互いの考えの違いなどを基にして論じ合う」ことで、一つのテーマを異なる立場から多角的に検討することができ、その過程において自分自身の見方や考え方を広げていくことができる教材である。本学年では、より生徒が主体的に取り組めるよう、討論テーマを「社会的問題」とし、自分たちが今一番関心のあることを出し合い、そこから選ぶことで、言語活動を必然性のあるものにした。そうすることで、自分が主張したいことをもとに情報を集め、よりふさわしい根拠や反論、質問を考えたりすることができる。

話すことは、書くこと以上に具体的な場面を想定することが不可欠である。これまでもグループディスカッションの学習はしてきているが、討論の場では、互いの主張の異なる部分を中心に議論することになるため、対立的な話し合いになりやすい。そこで本教材では、振り返りの時間を設け、自分の考えの変容をまとめたり、討論の仕方の良かった点を伝えたりすることで、自分とは異なる考えの良さに目を向け、自らの視野を広げ、考えを深められることに気づかせたい。

3 単元の目標

【知識及び技能】

- ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解する。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使っている。 【(2)イ】	・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ、表現している。 【A(1)エ】	・進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。

5 人権教育の視点

討論では、多様な意見や価値観を尊重し、相手の人格や尊厳を傷つけない態度を育てることが重要である。自分の意見を安心して伝えられる環境や、相互理解を促進する対話の場を設定することで、社会的包摂や共生社会の基盤となる力を養う。

また、選んだテーマについて、自分の意思を決定し、互いに考えを尊重しながら交流することで自分なりの結論を導く態度を養う。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。
【思考力・判断力・表現力等】A(1)エ

(2) 本時の評価規準

- ・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。
【思考・判断・表現】A(1)エ

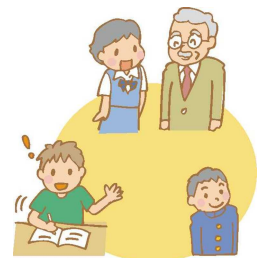
(3) 準備物

- ・ワークシート（討論メモ）
- ・一人一台端末

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 人権教育の視点	評価規準【観点】 (評価方法)
導入 (5分)	1 前時の振り返りと単元の流れを確認する。 ・本時のめあてと流れの確認をする。	○本時の課題を確認するとともに、学習の見通しが持てるようにする。 ・既習事項や討論の流れ等、共有ノート上にヒントBOXを用意する。 ・目的は、ただ意見を述べ合うだけでなく、相手の意見や価値観を尊重しつつ論理的に自分の意見を伝えることや、議論の過程で理由や証拠を示すこと、相手の意見のポイントを把握したうえで反論や賛成をすることを伝える。	
異なる立場や意見の人と話し合い、考えをまとめよう			
展開 (40分)	2 討論を行う。 ・ルールの確認 ・「修学旅行に携帯・スマートフォンは必要か」について ・賛成意見（3分） ・反対意見（3分） ・質疑応答①（4分） ・作戦タイム（5分） ・質疑応答②（4分）	○討論に参加する人、参観する人ともに、討論のメモを取るように伝える。 ○自分たちの考えについて、討論メモを確認・工夫できるようにする。 ・討論の工夫（根拠になる資料活用等） ・司会者の動き（意見の確認や時間配分等） ○班で討論メモを共有する時間を取り、工夫や改善点を確認できるようにする。 ・相手の根拠への反論 ・意見の根拠の質の向上 ・司会のまとめの準備 (両者の意見や話し合いの仕方によ	・論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現】 (討論メモ・発表)

	<p>3 テーマについて、最終的な自分の考えをまとめる。</p>	<p>い点等)</p> <p>○<u>互いの意見の違いを否定せず、異なる立場の意見のすばらしいところを見つけられるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論の評価の視点等、共有ノート上にヒント BOX を用意する。 ・話し合いの内容から、自分の立場が変わってもよいことを確認する。その際、一番納得した相手の意見のポイントを理由付けするように伝える。 ・司会者は、両者の意見や話し合いのよかった点、改善点をまとめるように伝える。 	
<p>まとめ (5分)</p>	<p>・本時の振り返り</p>	<p>○討論のメモを手引きに、めあてに対する自分の学びをまとめるように伝える。</p> <p>○<u>他者の意見を尊重して対話すると、自分の考えをより深めることができることを伝える。</u></p>	



2 個別的な視点からのアプローチ



(1) 同和問題 <小学校 社会>

◆指導事例（第6学年 社会）

1 単元名

明治の新しい国づくり

2 単元について

江戸幕府が倒れた後、西郷隆盛、大久保利通らにより、明治天皇を中心とした新しい時代が始まり、諸改革によって近代的な政治や社会の仕組みが整った。政府は四民平等を掲げ、平民となった百姓、町民にも、名字を名乗ることや、華族、士族との結婚や職業、住居の自由が認められたが、差別されていた人々は対象外とされた。1871年、政府は、「身分職業とも平民同様とする」解放令を發布したが、「平民と同様たるべき」という賤称廃止にとどまり、社会的、経済的補償はなく、積極的に身分解放を示す具体措置はなかった。解放令によって政治的制度的な身分制度は崩壊したものの、差別されてきた人々はこれまで負担のなかった課税を命じられる、職業の自由化により、江戸時代一手に引き受けていた「牛馬の処理、解体、販売」を失うなど、部落の困窮化や生活の低実態を招き、貧困、不衛生などに対する「優生思想」が新たな偏見を生みだしてしまう。しかし、解放令は、制度的に身分差別がなくなったという歴史的にも重要な意味を持ち、身分解放の出発点となる法律である。

本単元では、明治維新を契機として、欧米の文化を取り入れつつ我が国の近代化が進められたことを理解させることをねらいとしている。児童には、廃藩置県や四民平等、富国強兵策などの諸改革の内容やどんな欧米の文化を取り入れたのかという事実を理解させるにとどまることなく、それらが当時の社会や人々の生活にどのような影響や変化を及ぼしたかを考えさせるようにしたい。

3 単元の目標

【知識及び技能】

- ・黒船の来航、廃藩置県や解放令（四民平等）などの改革、文明開化による社会の変化などを理解する。
- ・調べたことを年表や図表などにまとめ、日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解する。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え、自分の言葉で表現できる。
- ・黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化による社会の変化などを関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現できる。
- ・「解放令」が發布された後の、民衆の被差別部落に対する根強い差別意識に対して自分だったらどうするかを考えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決できる。
- ・学習したことをもとに、過去の出来事が世の中に与えた影響や、現代社会との関連などの視点から、社会の発展について考えることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・黒船の来航、廃藩置県や解放令(四民平等)などの改革、文明開化による社会の変化などを理解している。 ・調べたことを年表や図表などにまとめ、日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見いだし、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え、表現している。 ・黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化による社会の変化などを関連づけたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。 ・「解放令」が發布された後の、民衆の被差別部落に対する根強い差別意識に対して自分だったらどうするかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・条約改正、大日本帝国憲法の発布、日清日露戦争、科学の発展などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、過去の出来事の中に与えた影響や、現代社会との関連などの視点から、社会の発展について考えようとしている。

5 人権教育の視点

解放令が出されたことによって、厳しく差別されてきた人々の生活がどのように変化したのかを差別された側の立場になって考えることで、不合理さを共感できるようにする。また、被差別部落の人々は、なくならない差別に対して力強く立ち向かった事例から、この後学習する被差別部落の人々を中心に生まれた水平社宣言が、日本国憲法の基本的な考え方に通じる大切なものであることにつなげていきたい。

6 本時の指導(3/5時)

(1) 本時の目標

- ・解放令後の被差別部落の人々の様子や依然として残る民衆の差別意識を読み取るとともに、根強い差別意識に対して自分の考えをもつことができる。 **【思考力・判断力・表現力等】**

(2) 本時の評価規準

- ・「解放令」が發布された後の、民衆の被差別部落に対する根強い差別意識に対して自分の考えを表現しようとしている。 **【思考・判断・表現】**

(3) 準備物

- ・ワークシート ・神祭の絵
- ・「愛媛県松山市の道後温泉における、温泉入浴拒否に対する差別事件とその判決について」の事例 **【人権教育資料集1(同和問題)つながり 高知県教育センター】**



(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (<u>人権教育の視点</u>)	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	1 解放令が発布された時の被差別部落の人々の思いをふり返る。 ・顔が明るくなり、喜んだ。 ・経験したことのない喜び。 ・涙を流しながら、歓声を上げた。 ・お祝いの宴をした。	・ <u>当事者がいるかもしれないことを意識して授業を進める。</u>	
展開 (35分)	2 課題を把握し、課題についての考えをもつ。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">「解放令」が出されて、差別はなくなったのか考えよう</div> <p>○それぞれの立場で意見を出す。 ・法律なのでなくなるはず。 ・意識はすぐには変わらない。 ・なくなっていないけど、改善はされている。</p> <p>3 神祭の絵から、どんな場面かを想像し、気づいたことを書く。 ・左側の人たちは怒っているような目をしている。 ・右側の人たちは悲しそうな目をしている。 ・入り口の文字を見ると、入ってはいけないのかな？ ・周りの人は楽しそう。</p> <p>○解放令が出されても、差別がなくならなかったことを確認する。</p> <p>4 お祭りに入れなかった人たちは、どんな思いをしていたのか考える。 ・解放令が出されたのに、どうしてにらまれないといけないのかな。 ・同じ平民なのにおかしい。</p> <p>5 なぜ差別がなくならなかったのかを考える。 ・解放令を出しただけで、政府は何もしなかった。 ・解放令を出されたことを知らない人が</p>	<p>・児童の考えが、全体に共有できるようにする。</p> <p>・顔の表情を中心に読み取るようにする。</p> <p>・<u>差別されてきた人たちの思いや悲しみに共感できるよう、自分だったらどう感じるのかを考えることができるようにする。</u></p> <p>・自分の考えを自由に発表し、話し合うようにする。</p>	
			・解放令が発布された後の、民衆の被差別部落に対する根強い差別意識に対して自分の考えを表現しようとしている。

	<p>多かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別する気持ちが根付いていた。 ・人の意識はすぐには変わらない。 <p>○「愛媛県松山市の道後温泉における、温泉入浴拒否に対する差別事件とその判決について」の事例を紹介し、被差別部落の人々は、なくなる差別に立ち向かったことを伝える。</p> <p>6 教科書で、解放令について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府が生活を改善する政策を行わなかったこと→暮らしがひどくなる。 ・住む場所や結婚、就職の差別もなくならなかった。 <p>7 今日の学習のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もし自分が絵の中にいたらどうするのかという視点も考えることができるようにする。 ・<u>被差別部落の人々の、差別に対して立ち向かった力強さが分かるようにする。</u> ・<u>子どもの言葉を使って、まとめをする。</u> 	<p>【思考・判断・表現】 (ワークシート)</p>
<p>「解放令」が出されても、差別はなくなり、国も生活を高める政策を行わなかったので、差別されていた人々の生活は、さらに苦しくなった。→厳しい差別に立ち向かった。</p>			
<p>振り返り (5分)</p>	<p>8 学習したことを振り返る。</p> <p>○わかったこと、友だちの考えから学んだこと、これから学びたいことの3視点で書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・差別がなくならなかったことに対して、被差別部落の人たちはどんな行動をとったのか等、今後学習する水平社宣言につながるように授業を振り返る。 	

7 参考

- ・人権教育資料集1 (同和問題) つながり 高知県教育センター
- ・神祭の絵



(2) 女性 <中学校 社会>

◆指導事例（第3学年 公民的分野）

1 単元名

個人の尊重と日本国憲法

2 単元について

中学校学習指導要領（社会）の「内容C 私たちと政治（1）人間の尊重と日本国憲法の基本的原則」に、「個人の尊重と法の支配、民主主義など民主政治の基本となる考え方について理解できるようにするために、人間の尊重についての考え方を、民主社会において全ての人間に保障されるべき価値を内容としてもつ基本的人権を中心に深めることができるようにする」とある。

そこで、この単元では、民主的なものの見方や考え方の基礎を養うことをねらいとし、人間の尊重の考え方について基本的人権を中心に深めさせる。

自由権や平等権、社会権、さらに社会の発展にともなう新しい人権にはどのようなものがあり、それがなぜ重要なのか、具体的な事例を通して理解させるとともに、基本的人権は、日本国憲法第13条の「個人の尊重」を根本としていることを理解し、自他の権利を尊重する精神と態度を養う。

3 単元の目標

【知識及び技能】

- ・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解する。
- ・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解する。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に深め、法の意義を理解している。・民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解している。	<ul style="list-style-type: none">・個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・人間の尊重についての考え方や日本国憲法の基本的原則などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

5 人権教育の視点

現代社会の性差をめぐる課題から、無意識の偏見や構造的格差に気づき、法的な知見を深めることを通して、誰もが尊重される公正な社会の実現に向けて主体的に参画しようとする態度を養う。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・現代社会における男女間の偏見や差別をなくすために制定された法律を基に、男女の本質的平等に向けて多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 【思考力・判断力・表現力等】
- ・性別による格差や無意識の偏見が「個人の尊重」を妨げている現状に気づき、誰もが尊重される社会の実現に向けての解決策を考えることを通して、社会に主体的に参画しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・現代社会における男女間の偏見や差別をなくすために制定された法律を基に、男女の本質的平等に向けて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 【思考・判断・表現】
- ・性別による格差や無意識の偏見が「個人の尊重」を妨げている現状に着目し、誰もが尊重される社会の実現に向けての解決策を考えることを通して、社会に主体的に参画しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

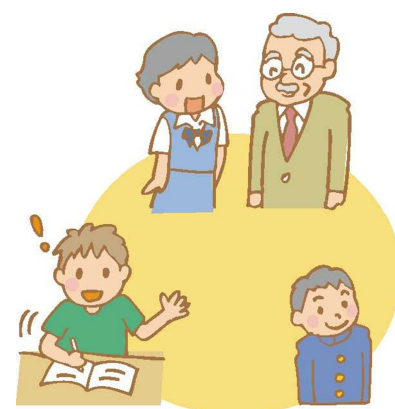
(3) 準備物

- ・ワークシート ・一人一台端末 ・架空の求人票

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	1 性別によって条件に違いがある架空の求人票を読み、その不平等な点を考える。	○求人票の内容を給与額の差といったものだけでなく、職種による固定観念などの、無意識の偏見(アンコンシヤス・バイアス)に気づけるような内容にする。	
本当の男女の平等とは何か、社会の現状をもとにして考えよう			
展開 (40分)	2 グラフ等から、現代社会における男女間の労働に関わる差異を読み取る。 ・男女の平均賃金のグラフ ・管理職への登用率のグラフ等 3 社会における男女の格差問題の解決に向けての法律を知り、その内容を理解する。 ・男女雇用機会均等法 ・男女共同参画社会基本法	○男性側の視点も、意識できるよう例示等を行う。 ・男性は長時間労働に陥りやすい。 ・育児休暇が取得しにくい。 等 ○「女性活躍推進法」や「育児・介護休業法」の改正など、現在も関係法等のアップデートが続いていることを伝え、現在進行形での社会の課題として捉えられるようにする。	

	<p>4 1で用いた架空の求人票をどのように改善すれば平等な内容になるかを考える。 個人思考→グループ協議</p> <p>5 各グループが改善した求人票を比較し、どの求人票がより平等になっているかについて話し合う。</p>	<p>○個人思考をしている時には3で調べた法令の内容を踏まえるように助言する。</p> <p>○求人票の書き換え(「<u>男性募集→男女募集</u>」に変更するのみ等)にとどまらないよう、「平等」とは何かという視点での協議が行われるように支援や助言を行う。</p> <p>○「<u>どの項目を一番重要視したか</u>」を共有させることで、<u>男女の本質的な平等に迫ることができるようにする。</u></p>	<p>・現代社会における男女間の偏見や差別をなくすために制定された法律を基に、男女の本質的平等に向けて多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>【思考・判断・表現】 (ワークシート)</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>6 男女の本質的平等を目指すための解決策や自分自身の関わりを考える。</p>	<p>○「形式的な平等(同じ条件にすること)」と「実質的な平等(個々の事情を汲み取った上で機会を保障すること=公平・公正という考え方)」の違いを踏まえた考えとなるように助言する。</p> <p>○<u>性に関する平等について考える際には男女だけでなく、性的マイノリティの人たちに配慮するという視点もあるということについて補足説明する。</u></p>	<p>・性別による格差や無意識の偏見が「個人の尊重」を妨げている現状に着目し、誰もが尊重される社会の実現に向けての解決策を考えるを通して、社会に主体的に参画しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート・発表)</p>



(3) 子ども <中学校 社会>

◆指導事例（第1学年 地理的分野）

1 単元名

世界の諸地域 アフリカ州

2 単元について

本単元は、学習指導要領（社会）の地理的分野「内容B 世界の様々な地域（2）世界の諸地域③アフリカ州」に基づき、各州の地域的特色を大観し、地球的課題の要因や影響を多面的・多角的に考察することを目的としている。

アフリカ州は、人類誕生の地としての歴史を有しながらも、近世以降の奴隷貿易や長きにわたる植民地支配の影響を強く受けてきた。その過程で形成されたモノカルチャー経済という構造的課題に対し、現在はレアメタルの産出やフェアトレードの推進といった経済自立への取り組みが見られる。一方で、人口爆発に伴う食糧不足、貧困や飢餓、紛争など、克服すべき課題も依然として多い。

本単元では、こうしたアフリカ州の諸課題を解決するための学習活動を通じ、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。特に、課題解決へのアプローチとして「子どもの権利」に着目し、「子どもの権利条約」の視点から人権の重要性を検討する。これにより、他者のみならず自分自身の権利についても主体的に捉え直す、深い学びを目指したい。

なお、本単元では、アフリカ州の近年の急速なICTの普及や目覚ましい経済発展の実態にも光を当てる。これにより、アフリカの子どもたちを単なる「支援の対象」として捉えるのではなく、共に未来を創造する主体的な存在として尊重し、先入観にとらわれない多角的な視点から、共生社会の在り方を考察できるようにしたい。

3 単元の目標

【知識及び技能】

- ・アフリカ州の人々の暮らしと地域的特色を理解している。
- ・単元を貫く課題の解決に向けて、様々な資料を収集し、必要な情報を読み取り、図表などにまとめる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・アフリカ州の人々の暮らしの変化や、課題について資料や図表をもとに判断し、自分たちにできることや日本としてできることを多面的・多角的に考え、自分の言葉で表現する。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・アフリカ州に暮らす人々のよりよい生活の実現に向けて、主体的に課題を追究する。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の人々の暮らしと地域的特色を理解している。 ・単元を貫く課題の解決に対して、様々な資料を収集し、必要な情報を読み取り、図表などにまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州の人々の暮らしの変化や、課題について資料や図表をもとに判断し、自分たちにできることや日本としてできることを多面的・多角的に考え、自分の言葉で表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ州に暮らす人々のよりよい生活の実現に向けて、主体的に課題を追究しようとしている。

5 人権教育の視点

本単元では、エチオピアで暮らす13歳の少女・アイシャさんの日常（日本ユニセフ協会動画資料から）を事例として、生徒と同世代の視点から現在進行形の人権課題を具体的に把握させることを目的とする。

学習の展開にあたっては、日本ユニセフ協会の「子どもの権利条約」を活用し、アイシャさんの生活の中でどのような権利が侵害されているのかを多角的に分析させる。その際、単なる現状の把握に留まらず、その背景にアフリカ特有の歴史的経緯や地理的要因が複雑に絡み合っていることを理解できるようにしたい。

こうした構造的な背景を捉えた上で、アイシャさんの生活向上に必要な手立てを検討する活動を通じ、「権利が守られることは、他者のみならず自分自身にとっても当然の権利である」という自分たちも当事者であるという気づきを促す。他者の人権を尊重することと、自分自身の権利を大切にすることを一連のものとして捉え直し、生徒一人ひとりの人権意識を内面化させる契機としたい。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・アフリカ州の歴史的・地理的背景や、提示された資料（アイシャさんの生活、子どもの権利条約など）から必要な情報を読み取り、よりよい生活の実現に向けて何が課題となっているかを整理して理解する。

【知識及び技能】

- ・アフリカ州の中学生が抱える課題を、自分自身を含む「子どもの権利」の問題として捉え、相手の立場に立ってよりよい生活の実現に向けた解決策を粘り強く考え、主体的に追究する。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・アフリカ州の歴史的・地理的背景や、提示された資料（アイシャさんの生活、子どもの権利条約など）から必要な情報を読み取り、よりよい生活の実現に向けて何が課題となっているかを整理して理解している。

【知識・技能】

- ・アフリカ州の中学生が抱える課題を、自分自身を含む「子どもの権利」の問題として捉え、相手の立場に立ってよりよい生活の実現に向けた解決策を粘り強く考え、主体的に追究しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 準備物

- ・ワークシート



(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)	評価規準 (評価方法)
導入 (10分)	1 動画「アイシャの1日」(日本ユニセフ協会)を視聴し、アイシャさんのどのような権利が侵害されているのかについて気づいたことを発表する。	○前時までに学習した「 <u>子どもの権利条約</u> 」をもとに、 <u>同じ中学生として、どのような権利が侵害されているのかを考え、自分の言葉でまとめるように促す。</u>	
アイシャさんの「権利」が守られるために必要なアフリカ州の社会の仕組みを考えよう			
展開 (35分)	2 「アイシャさんが中学生らしい生活を送るためには何が必要か」についての自分の考えを、根拠を明確にしてまとめる。 3 2で考えた内容をグループで共有し、「社会全体の仕組み」という視点から、アイシャさんの生活を変えるためにどうしたらよいかを考える。	○「 <u>子どもの権利条約</u> 」の中から、 <u>アイシャさんが侵害されていると考える権利を2つに絞り、今までの学習をもとにどうすれば権利の侵害を改善することができるのかを考えるように指示する。</u> ○自分の考えをまとめていくに当たって、本單元における既習事項との関連のもとで考えを深められるように、既習の重要語句を提示し、その中から2つ以上用いるように指示する。 ・植民地 ・レアメタル ・モノカルチャー経済 等 ○ <u>貧困の背景にあるモノカルチャー経済や植民地支配の歴史を、解決すべき社会のしくみとして論理的に捉えられるようにし、日本や既習の他地域との比較などから解決策を探るよう伝える。</u> ○ <u>地域内での協力や、子どもの権利条約という国際的な仕組みを活用した解決の可能性などにも留意できるように助言を行う。</u>	・アフリカ州の歴史的、地理的背景や、提示された資料(アイシャさんの生活、子どもの権利条約など)から必要な情報を読み取り、よりよい生活の実現に向けて何が課題となっているかを整理して理解している。 【知識・技能】 (ワークシート) ・アフリカ州の中学生が抱える課題を、自分自身を含む「子どもの権利」の問題として捉え、相手の立場に立ってよりよい生活の実現に向けた解決策を粘り強く考え、主体的に追究しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (ワークシート・発表)

まとめ (5分)	4 アフリカが抱える課題の解決について考えることは、アフリカの子どもたちの権利を守ることになるとともに、自分自身の権利について考えることに繋がるという視点から振り返りを行う。	○ <u>子どもの権利条約が国境を越えた共通のルールであることを踏まえ、自分自身の生活や学校生活においても「誰かの権利が損なわれていないか」を問い直す機会とする。</u>	
-------------	---	---	--



(4) 高齢者 <高等学校 福祉>

◆指導事例（第2学年 介護福祉基礎）

1 単元名

介護の意義と役割

2 単元について

高等学校学習指導要領（福祉編）の「内容（1）介護の意義と役割 ア 尊厳を支える介護」に「人間の尊厳を保持するための介護の必要性や高齢者や障害者などの虐待防止の重要性について扱うこと」とある。

そこで、この単元では、基本的人権の尊重を基盤とした介護の在り方を学習させる。また、介護は、利用者一人一人の尊厳を守り、その人らしい生活を支える専門的な実践であることを理解させる。さらに、介護従事者として求められる専門性や職業倫理を身に付け、自立した生活を送るための支援や介護を担う職業人としての自覚と使命感を育むことをねらいとしている。

3 単元の目標

【知識及び技術】

- ・尊厳ある介護について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・介護に関する意義と役割についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

4 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・尊厳を支える介護について体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	・介護に関する意義と役割についての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	・介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 人権教育の視点

本単元では、高齢者を「支援の対象」としてではなく、「権利の主体」として捉える視点を育てる。虐待の背景や種類、高齢者虐待防止法等について理解させるとともに、高齢者がこれまで培ってきた経験に敬意を払うことや、高齢者の身体的・精神的な変化や生活実態等に合わせて、高齢者の人権を尊重したコミュニケーションを心がける態度といった人権教育の価値的・態度的側面や技能的側面にも焦点を当てた指導をねらいとしている。また、保護者や生徒自身が当事者である可能性も考えられるため、当事者の抱える課題や心情にも配慮した授業展開を心がける。

6 本時の指導（3／4時）

(1) 本時の目標

- ・高齢者虐待の種類や背景、高齢者虐待防止法について理解する。
- ・高齢者の喪失体験を疑似体験し、尊厳や権利の視点からその心情を考える。

(2) 本時の評価規準

- ・高齢者虐待の種類や背景、高齢者虐待防止法について理解している。 【知識・理解】
- ・尊厳や権利の視点からその心情を考察し、わかりやすく表現している。 【思考・判断・表現】

(3) 準備物

- ・ワークシート
 - ① 1人6枚の紙を受け取る。
 - ② 自分が大切にしているものやことをそれぞれの紙に1つずつ記入する。
 - ③ 教員から、加齢に伴い心身の変化において失っていくものを聞く。
 - ④ 自分の紙に該当するものがあつた場合には、その紙に×印をつける。
 - ⑤ ③から④を繰り返す。
 - ⑥ 喪失体験をした時の気持ちを書き出す。

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)	評価規準 (評価方法)
導入 (7分)	1 本時の学習の内容を確認する。 ・尊厳のある介護について理解するための質問について、ペアで話し合う。	○ <u>保護者や生徒自身が介護者である可能性を踏まえて問いかける。</u>	
高齢者の尊厳を尊重した介護について考える			
展開 (35分)	2 高齢者虐待防止法と虐待の種類を理解する。 ・虐待の種類をワークシートで確認する。 ・高齢者虐待防止法について、ワークシートに記入する。 ・虐待者に関する状況をワークシートのグラフから読み取り、ワークシートに記入する。	○ <u>高齢者への虐待が、高齢者の尊厳を著しく侵害する行為であることを確認させる。</u> ○教科書の該当箇所を示す。 ○ヒントを与えながら、データから虐待の状況を読み取るよう働きかける。	・高齢者虐待の種類や背景、高齢者虐待防止法について理解している。 【知識・理解】 (ワークシート)

<p>3 高齢者虐待の背景を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待者の介護の状況について、説明を聞いて、ワークシートに記入する。 ・「加齢により心身機能が低下し自立が難しくなると、介護者の負担が増大し、知識不足から虐待に至る場合もある」という高齢者虐待の背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○虐待者の状況について説明する。 ○教科書の記載とワークシートの虐待者の状況との関連に気づかせる。 ○生徒自身の高齢の家族への関わりや、周囲の高齢者に対するイメージを振り返らせながら、身近なこととして考えることができるよう促す。 	
<p>4 高齢期の喪失を疑似体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が大切にしている物事を1枚の紙に対して1つずつ記入する。 ・自分の紙に該当する物事があった場合には、その紙に×をつける。 ・大切な物事を失ったときの気持ちを書き出す。 ・失ったとしても守られるべきものは何か書き出す。 ・自分の書き出した気持ちについてペアで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が大切にしているものやことを用紙に記入させる。 ・生徒が記入している間、机間指導により内容を確認する。 ○加齢に伴い、心身の変化において失っていくものをひとつずつ伝える。 ○<u>高齢であっても今の自分であっても大切なものやことを失うときの気持ちは変わらないことに気づかせる。</u> ・喪失体験と尊厳の関連性を言語化できるよう支援する。 ・失うことが続く中で、人は何を守りたいと思うか考えることができるよう促す。 ○<u>相手の話を聞くときには、うなづきや相づち、肯定的なフィードバックをするよう促す。</u> 	
<p>5 高齢者に関する人権問題について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・相談窓口について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の該当箇所を指示する。 ○相談窓口について、簡単に具体的な説明を付け加える。 	

まとめと振り返り（8分）	6 本時のまとめをする。 ・高齢者虐待防止法に向けた介護従事者の視点をワークシートに書き、ペアで確認する。 ・何組か発表する。	○生徒から出された言葉を用いて本時の学習内容をまとめる。	・尊厳や権利の視点からその心情を考察し、分かりやすく表現している。 【思考・判断・表現】 (観察、ワークシート)
	7 本時の振り返りを行う。	○本時の学習を振り返らせる。 ○次時の学習内容を予告する。	

7 参考資料

「厚生労働省 高齢者虐待の基本 I」



(5) 障害者 <小学校 総合的な学習の時間>

◆指導事例（第4学年 総合的な学習の時間）

1 単元名 「みんなが住みやすい町をめざして」（全40時間）

2 単元の目標

障害のある人や関係者の人から話を聞いたり交流したりすることを通して、自分なりの課題をもち学習を進めていく。学習を通して、人権が大切にされる町は誰にとっても住みよい町であることに気付き、その町づくりに向けて自分たちにできることを考え、一人一人の違いを認め共に生きていくことの大切さを理解し、人権が尊重された地域づくりに向けて実践しようとする態度を身に付けることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①体験や交流活動を通して、障害のある人や関係者の生活や関わり、生き方に気付くことができる。 ②調査活動や情報収集の手順を身に付け、必要に応じて適切に実施している。 ③障害のある人への接し方等、自分の行動の変容は、障害のある人とその暮らしについて探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①障害のある人の生活の様子や、様々な人々の関わりを通して感じた関心をもとに課題を見出し、解決の見通しをもっている。 ②課題の解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集し、種類に合わせて蓄積している。 ③課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し考えている。 ④相手や目的に応じて、分かりやすく表現している。	①課題を達成するために、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとしている。 ③自分と地域のつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。

4 人権教育の視点

- ・障害のある人の立場に立った学習を通して、相手を思いやり、お互いを認め支え合おうとする。
- ・障害のある人に対する差別や偏見をなくすためにはどうしたらよいかを探究し、話し合うことにより人権感覚を養う。
- ・障害のある人と共に生きている地域で自分ができることについて考え、行動する力を育てる。

5 指導と評価の計画（全40時間）

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
課題設定 私たちの町のよさをさぐる。(13)	・自分たちの住んでいる町のよさを書き出し、関心をもつ。 ・3年生の時に行った「町自慢」の学習を振り返らせ、自分たちの住んでいる町のよさについてたくさん意見を出す。 ・意見と実際の体験からよさをまとめる。		①		・記録シート ・行動観察 ・発言内容 ・振り返りシート

<p>情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住んでいる町のよさについて地域の人達にインタビューを行う。 インタビューした情報を個人で整理した後、グループや全体で合わせ共通点や相違点を分析する。 よさや不便なところ、予想とは違っていたところなどをまとめる。 インタビューで集めた情報をもとに、発表の準備をする。 	②		<ul style="list-style-type: none"> 記録シート 行動観察 発言内容 振り返りシート
<p>整理分析 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが活動を振り返って調べたことをまとめ発表する。 「私たちの町のよさ」を発表するとともに、他のグループはどのようなことを調べ、まとめたかを知る。 現状や悩みを考える。 		④	<ul style="list-style-type: none"> 記録シート 行動観察 発言内容 振り返りシート
<p>課題 みんなが住みやすい町って、どんな町だろう (21)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなが住みやすい町」とはどのような町なのか、誰にとって住みやすい町なのかを考える。 いろいろな人の視点（高齢者、障害者、外国人、子ども、妊婦等）から、自分たちの住んでいる町のよさを考える。 町の中にある不便さを改善するためには、誰に話を聞くべきか考える。また、どんなことに不便さを感じているのか、実際に体験できないかを話し合う。 		①	② <ul style="list-style-type: none"> 記録シート 行動観察 発言内容 振り返りシート
<p>情報収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中の不便さを疑似体験するとともに、障害のある人のボランティア活動をしている人や障害者スポーツをしている人から話を聞く。 疑似体験をする (アイマスク体験、点字体験、車椅子体験、聴覚障害体験、高齢者疑似体験、白杖体験、障害者スポーツ 等) 	①		① <ul style="list-style-type: none"> 記録シート 行動観察 発言内容 振り返りシート
	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある人をよりよく知るための質問内容を考え、交流を行う。 障害のある人や施設で働く人から、どんなことが改善されたらいいのか、話を聞き、実際にどんなことで困っているのか、現状や悩みを聞く。 私たちができることについて意見を出し合う。 	②	②	<ul style="list-style-type: none"> 記録シート 行動観察 発言内容 振り返りシート
<p>整理分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見学や体験、インタビューした情報をもとに、自分ができることや記載する内容や構成を考え、「みんなにとって住みやすい町プラン」を作成する 自分たちが調べたこと、考えたこと、まとめたことを地域に広げるため、学習発表会を行う。 たくさんの人に来てもらえるように招待状を書く。 		③	③ <ul style="list-style-type: none"> 記録シート 行動観察 発言内容 振り返りシート

<p>【まとめ】</p> <p>地域へのかかわり方を考えよう。</p> <p>(6)【本時】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会で「みんなにとって住みやすい町プラン」をもとに発表するための準備をする。 ・障害のある方も発表内容がわかるように、手話で伝える準備もする。 ・自分たちで決めた表現方法に必要な要素を考え、伝えたい内容と結びつけ、「みんなにとっても住みやすい町」を実現するために、いろいろな人の視点から自分たちには何ができるのかを考え、発表する。 	③	④	<ul style="list-style-type: none"> ・記録シート ・行動観察 ・発言内容 ・振り返りシート
--	---	---	---	--

6 本時の指導 (35/40)

(1) 本時の目標

相手の立場を想像し、音楽で深めた曲の思いを、手話を使ってよりよく伝える方法を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

音楽で深めた曲の思いを、手話を使ってよりよく伝える方法を考えようとしている。

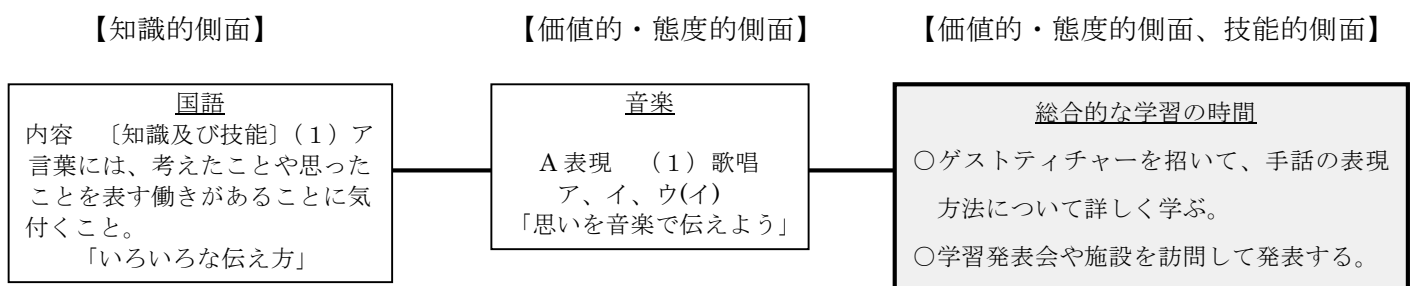
【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 人権教育の視点	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	<p>1 ゲストティーチャーを紹介し、手話での挨拶（こんにちは、ありがとう、自分の名前など）を覚えてもらう。</p> <p>○簡単な手話でペアで自己紹介をし、コミュニケーションを楽しむ。</p> <p>2 「OMOIYARI の歌」を歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手話を使う楽しさを体感できるようにする。 ・ゲストティーチャーに、なぜ手話が大切なのか、簡単な実体験を交えて話してもらう時間も確保する。 	
展開 (35分)	<p>3 「OMOIYARI の歌」の手話付き動画を見る。</p> <p>4 手話を使って歌う時、どんなことに気をつけたら、自分の気持ちが聞いている人に伝わるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく手を動かす ・曲のリズムに合わせる ・歌詞に合った動きをする ・歌う表情も大切 	<p>聞いている人に思いが届くように、表情や動きを工夫して手話で歌おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>手話が聴覚障害の人だけのコミュニケーション方法ではなく、自分自身の表現方法の1つであることを意識できるようにする。</u> 	

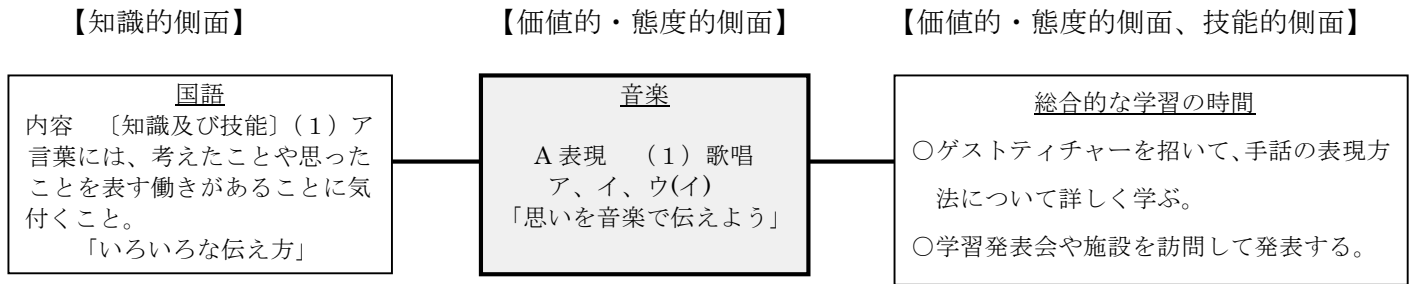
<p>○ゲストティチャーから手話を使って歌う時のアドバイスをもらう。</p> <p>○繰り返し出てくる言葉や、大事にしたい言葉の手話を、ゲストティチャーから習う。</p> <p>5 班で端末を使い、練習をする。</p> <p>6 班で工夫したところ、気を付けたところを発表する。</p> <p>○全員で歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティチャーからアドバイスをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話で、相手が性格や気持ちも読み取ること、声が出ないと、動作が小さくなることや、口の動きで読み取る人もいるので、口を大きく開けて歌う等、聴覚障害者の立場に立って手話を使って歌うポイントを伝える。 ・教員とゲストティーチャーで机間指導を行い、子どもたちの「こんな風に表現したい」という思いを具体的な動きにできるよう支援する ・互いの発表の良い点を見つけ、認め合う雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽で深めた曲の思いを、手話を使ってよりよく伝える方法を考えようとしている。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 (行動観察)</p>
<p>振り返り (5分)</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で、考えたこと思ったことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの言葉で「相手に<u>伝わる手話表現のポイント</u>を整理し、板書で共有する。

7 教科等横断的な取組例



教科等横断的な取組として、音楽の指導事例を掲載しています。

音楽の指導事例には、6 人権教育の視点及び7（4）の本時の展開の「指導上の留意点」に、人権が尊重される授業づくりの視点（P77）を記載しています。



<小学校 音楽>

◆指導事例（第4学年 音楽）

- 1 題材名 思いを音楽で伝えよう
- 2 教材名 「OMOIYARIの歌」 藤田恵美作詞・作曲

【本題材で扱う学習指導要領の内容】

A 表現 (1) ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと
イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと
ウ(イ) 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能

[共通事項] (1)

(本題材において児童の指導・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」)

3 題材について

本題材の教材曲「OMOIYARIのうた」は、2008年に作曲され、全国へと広がり2018年には小学校4年生道徳の教科書にも掲載された。作詞・作曲者の藤田さんは学校でのボランティア活動を通して、思いやりの大切さを子どもたちに歌を通して伝えることをライフワークとして活動しようと決心した。愛知県の小学校訪問で多くの子どもたちと一緒に「思いやりって何だろう？」を考え、その答えを集めて「OMOIYARIのうた」は作られた。子どもたちから集めた「思いやり」の言葉をもとにつくった心温まる楽曲となり、愛知おもいやりサミットで披露された後、日本青年会議所「OMOIYARI運動」の公式テーマソングにもなっている。

本題材では、詩と音楽との関わりの特徴を見つけ、曲想に合う歌い方の工夫について考え、歌唱表現につなげていきたい。

なお、本題材で学んだ「OMOIYARIのうた」は教科等横断的な取組の一環として、総合的な学習の時間に地域の施設訪問で手話コーラスとして発表する。音楽科で学んだ教材曲のもつメッセージを合唱とともに手話で伝える、という学習へと広げていく。

4 題材の目標

【知識及び技能】

- ・曲想と旋律などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付ける。

【思考力・判断力・表現力】

- ・旋律について聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。

【学びに向かう力、人間力等】

- ・音楽の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみ、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組み、思いを伝える合唱に親しむ。

5 評価の視点

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いている。 技 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。	思 旋律について聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	態 音楽の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

6 人権教育の視点

歌詞に込められた思いや、どのような歌い方で表現するかを話し合う活動を通して、自分なりの解釈や感じ方に気づくとともに、友だちの多様な考えに触れ、それぞれの考えの良さを認め合う態度を養う。

7 本時間の指導（3/3）

（1）本時の目標

音楽の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみつつ、主体的・協働的に歌唱の歌習の活動に取り組むことができる。 **【学びに向かう力、人間力等】**

（2）本時の評価規準

音楽の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

（3）準備物

「OMOIYARI のうた」の歌詞

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 人権教育の視点	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	1 前時の復習をする。 2 本時のめあてを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した歌詞の内容についてキーワードを提示しながら復習し、通して歌う。 一番強く伝えたい歌詞のメッセージは何かを問い、めあてにつなげる。 	
曲のメッセージが伝わるように、歌い方を工夫しよう			
展開 (35分)	3 歌詞を朗読し、伝えたいメッセージについて考える。 ・「思いやりって何だろう？」の問いの答えになると思う歌詞をグループで話し合う。 4 3で意見交換した歌詞について、答えになっていると思う歌詞を合意形成し、歌い方の工夫を考える。 ・旋律の特徴を聴き取り、歌詞の言葉との関わりを考え、特徴を生かした歌い方を歌い試していく。 5 考えた歌い方の工夫について共有し、全員で歌う。	<ul style="list-style-type: none"> <u>児童たちからいろいろな意見が出るように、肯定的な評価をする。</u> 作詞・作曲者の藤田さんの言葉を紹介し、訴えているメッセージについて考えがもてるよう支援する。 <u>歌詞のメッセージについて、友だちの意見を尊重しながら合意形成していくことを伝える。</u> 旋律の動きに着目して、曲想との関わりに気づくように促す。 それぞれのグループで歌い試しながら、意見交換できるよう、タブレットに音源を入れておく。 旋律の繰り返しや歌詞の繰り返しについて、どのように工夫して歌うとよいのか共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (観察)
振り返り (5分)	「OMOIYARI の歌」は、温かく幸せな感じが伝わるように、せんりつと歌のくりかえしをクレッシェンドして、優しいフォルテで歌う。		
	6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 「OMOIYARI のうた」を総合的な学習の時間で手話コーラスにすることを伝える。 	

(6) 感染症患者等（エイズ・HIV） <中学校 保健体育>

◆指導事例（第3学年 保健体育）

エイズやHIVについての知識を身に付け、正しい判断ができるようにしよう

〈教育課程上の位置付け〉

保健体育 (1) 健康な生活と疾病の予防 (オ) 感染症の予防 ①エイズ及び感染症の予防

1 単元について

本単元では、人間の健康は主体と環境が関わり合って成り立つこと、健康を保持増進し、疾病を予防するためには、それに関わる要因に対する適切な対策があることについて理解することが必要である。さらに、自他の健康に関心をもち、現在だけでなく生涯を通じて健康の保持増進や回復に主体的に取り組む態度を身に付けることが必要である。そのため、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること、生活行動と健康に関する内容として喫煙、飲酒、薬物乱用を取り上げ、これらと健康との関係を理解できるようにすることが大切である。また、疾病は主体と環境が関わりながら発生するが、それらの要因に対する適切な対策や保健・医療機関や医薬品を有効に利用することなどによって予防できること、社会的な取組も有効であることなどの知識と健康な生活と疾病の予防に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等の育成を中心として構成している。

本時では、エイズの疾病概念や感染経路、感染リスクを軽減する効果的な予防方法を身に付ける必要があることを理解するとともに、患者や感染者に対する偏見や差別があることを知り、その人たちの悩みや苦しみを理解し、安心・安全に暮らしていく社会にしていけるためにはどうしたらよいかを考えるよい機会になる学習でもある。

2 本時のねらい

- ・エイズ及びHIVウイルスの疾病概念や感染経路について理解し、エイズ患者への差別について考えることができるようにする。

3 評価の視点

- ・エイズ及び性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身につける必要があることについて理解している。
- ・患者や感染者に対する偏見や差別があることを知り、その人たちの悩みや苦しみを理解し、共に生きる社会に向けてどうすればいいのかを考えている。

4 人権教育の視点

感染は自分や大切な家族にも起こりうることであり、他人事ではなく自分自身の問題として捉えることが大切である。自分や身近な人が感染したらどう感じるかを想像することが、差別や偏見をなくすことにつながる。様々な感染症を予防するためには、病気に対する正しい知識を理解すると共に、HIV感染者やエイズ患者に対する偏見や差別があることを知り、その人たちの悩みや苦しみを理解し、共に生きる社会づくりを考える態度を身に付ける視点も大切にして学習を進めていきたい。

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)	評価の視点
導入 【5分】	1 前時の復習 ・ 事前に実施したエイズ及び HIV に関する問題を再確認する。 2 エイズに対する差別や偏見について考える。 ・ なぜ、こんな事例が広がったのかを考える。 3 本時のめあてを確認する。	・ <u>エイズに関する差別や偏見の事例（エイズパニック）をいくつか紹介し、どのように感じたか共有する。</u>	
	エイズや HIV についての知識を身に付け、正しい判断ができるようにしよう		
展開 【37分】	4 エイズについて学ぶ ○ 主な症状 ○ 主な感染経路 【血液・性的接触・母子感染】 ○ エイズの予防方法について、調べる。 5 現在の治療では、早期に発見し、適切な治療をすることで、重病化しないことを確認する。 6 発問「友だちが HIV に感染したらショックを受けてしまうので、検査をしたくないと言われたらどう答える？」 ・ 個人で考えた後、グループで共有する。 ○ 答え方のポイントを確認する ・ 気持ちに寄り添う ・ 検査の大切さを伝える ・ 正しい知識を伝える ・ 友だちとして支える気持ちを伝える。	・ <u>生徒の中に HIV 感染者や家族がいる可能性を考えて説明する。</u> ・ 感染者は特別な人という距離感を生まないよう、誰でもなる可能性があるということを伝える。 ・ <u>教科書や本冊子 P54 の県内の医療関係者の Message を読み、治療方法や当事者の思い、困り事を共感できるようにする。</u> ・ <u>グループ活動では、相手の意見を否定するのではなく、尊重し共感するように声掛けする。</u> ・ <u>カミングアウトにもつながる可能性があるので、相手の気持ちを尊重した対応が必要であることを意識できるようにする。</u>	・ エイズ及び性感染症の疾病概念や感染経路、感染のリスクを軽減する効果的な予防方法を身につける必要があることについて、理解している。 ・ 患者や感染者に対する偏見や差別があることを知り、その人たちの悩みや苦しみを理解し、共に生きる社会に向けてどうすればいいのかを考えている。

まとめ 【8分】	7 まとめ	・生徒の言葉を使ってまとめる。	
	<p>HIVの感染を防ぐためには、不特定多数との性的接触をしないこと、コンドームを正しく使用することが重要である。また、感染を早期発見し、治療を始めることで症状を抑える事が可能である。</p>		
	8 振り返り	・ <u>コロナ禍で起こった差別問題と関連させ、正しい知識をもつことが自分も他者も大切にすることにつながることを確認する。</u>	



(7) ハンセン病 <小学校 特別の教科 道徳>

◆指導事例（第6学年 特別の教科 道徳）

1 主題名 公正・公平な社会をめざして C (13) 公正、公平、社会正義

2 教材名

～ハンセン病と家族の物語～ 夢でしか帰れなかった故郷

法務省人権擁護局 (公財) 人権教育啓発推進センター作成

3 題材について

ハンセン病は現代ではほとんど発症することがなく、適切な治療によって完治する病気である。しかし、かつて国が採用した強制隔離政策により、ハンセン病は恐ろしい病気だという誤ったイメージが社会に根付いてしまった。この偏見は元患者だけでなく、その家族にも深い差別や苦しみをもたらした。

現在、隔離を定めた法律は廃止されているものの、元患者やその家族に対する偏見や差別は依然として存在している。こうした問題を解消するためには、ハンセン病に関する正しい知識を得ることが何より重要である。また、偏見や差別は他人ごとで済まされる問題ではなく、自らの行動や考え方と密接に関係するという自覚を持つことが必要である。

本単元では、ハンセン病元患者たちが受けてきた偏見や差別と同様、その家族も深刻な差別や偏見に苦しんできたことにもふれ、社会正義の実現について考えることができるようにしたい。

4 本時のねらい

ハンセン病の歴史や元患者の姿などを通して、差別や偏見をなくすため自分たちができること考え、差別や偏見をもたず、公正、公平な態度で正義の実現に努めようとする実践意欲を育てる。

5 評価の視点

道徳的価値の理解を基に自己を見つめる	道徳的価値の理解を基に多面的・多角的に考える	道徳的価値の理解を基に自己の生き方についての考えを深める
・クラスや集団、社会の中で、多数派ではない立場の人に対してどのような考え方をしていたかと、自分を見つめている。	・社会的な差別や偏見が起きる背景や、それを乗り越えることの大切さと難しさなどといったさまざまな面から、公正、公平な社会についての考えを広げている。	・差別や偏見を許さない姿勢の大切さを踏まえて、誰もが幸せになれる社会の実現のために、どんな意識をもつことが大切かを考えている。

6 人権教育の視点

差別や偏見を持たずに公正・公平な態度で正義を追求することの大切さを考え、差別や偏見が生じる背景や、それらを克服する難しさと必要性に目を向け、公正で公平な社会の実現について理解を深める。そして、差別や偏見を許さない姿勢を大切に、誰もが幸せに暮らせる社会をつくるために、自分自身がどのようなことができるかを考える。

7 本時の指導

(1) 準備物

- ・動画教材「ハンセン病と家族の物語～夢でしか帰れなかった故郷」(法務省)
- ・コロナ禍の事例(新聞等)
- ・ワークシート



(2) 学習の展開

	学習活動	児童の反応	指導上の留意点 (人権教育の視点)
導入 (5分)	<p>1 コロナ禍で起こった差別事例を取り上げ「病気になったということだけで差別や嫌がらせをされた人がいたこと」についてどう思うか考える。</p> <p>2 社会科で学習した「基本的人権の尊重」について振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そんなことをされたら、とてもつらいと思う。 ・病気は本人のせいじゃないのに、どうしてそんなことをするのか分からない。 ・困っている人がいたら助けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>家族に当事者がいるかもしれないという</u>ことを意識して<u>進める</u>。 ・人権が大切にされていないという視点で意識できるようにする。
展開 (35分)	差別や偏見をなくすためには、どうしたらいいのだろう		
	<p>3 ハンセン病の動画の前半(1分30秒)までを視聴する。</p> <p>4 「病気がうつると困るから」と隼人は直紀の机を離してしまいました。この時直紀はどのような気持ちだったのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ机を離されるのか分からない。 ・病気は治っているのに。 ・医者も登校を許可してくれたのに。 ・隼人や周りの友だちは、病気がうつるかもしれないと思っていたのかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話のすじを確認する ・それぞれの立場を理解し、その思いや背景についても考えることができるようにする。
	<p>5 ハンセン病の動画の後半(11分55秒まで)を視聴する。</p> <p>6 元患者(豎山勲さん)は自由に療養所の外に出ることができず、家族とさえ会うことができませんでした。 もし、元患者(豎山さん)やその家族だったら、どのような気持ちになるか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こんなひどいことが起こっていたなんて知らなかった。 ・まちがったことを国はしていたんだ。 ・なぜこんな思いをしなくてはいけないのだろう。 ・家族(父)と会いたい。 ・自分の名前を変えられたくない。 ・故郷に帰りたい。 ・自由になりたい。 ・法律で隔離するなんて人権が守られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ハンセン病についての正しい知識や歴史をしっかりと捉えることができるようにする</u>。 ・登場人物の心情を想像させることで、ハンセン病問題を自分事として考えるようにする。

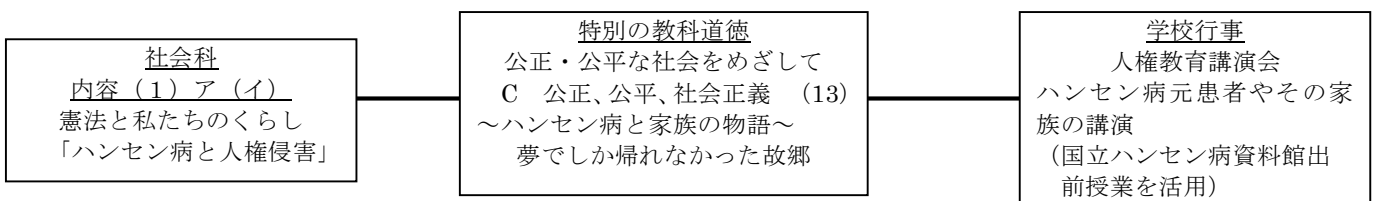
	<p>○元患者だけでなく、元患者の家族がいかに辛い思いをしてきたのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事によられない。 ・学校でいじめられた。 ・引っ越しをしないといけなくなった。 ・結婚差別を受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・差別されていたのは元患者さんだけでなかったんだ。 ・家族もつらかったんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元患者だけでなく、その家族も<u>厳しい偏見や差別を受けてきたことを意識できるようにする。</u>
	<p>7 差別や偏見をなくすためには、どうしたらいいのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病気について正しい知識をもつ。 ・相手のことを考える。 ・自分だったらどう思うかを考えて行動する。 ・おかしいことは、おかしいと言うようにする。 ・自分がされたくないことはしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>席を離れた行為と、ハンセン病問題そして、コロナ禍で起こった差別問題が関連していることを踏まえて考えるようにする。</u> ・様々な考えに触れ、自分の考えを広げ深めることができるようにする。
<p>終末 (5分)</p>	<p>8 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習で、考えたこと思ったことを書く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの学校生活を意識させて振り返ることができるようにする。

8 教科等横断的な取組例

【知識的側面】

【価値的・態度的側面】

【価値的・態度的側面、技能的側面】



(8) 外国人 <小学校 生活>

◆指導事例（第2学年 生活）

1 単元 くらべてみよう、せかいとにほん 内容(8) 生活や出来事の交流

2 単元について

本単元は、内容(8)「生活や出来事の伝え合い」の内容で、外国の文化と出合うことと、つながることの2つで構成されている。単元を通して、外国と日本の文化を比較し、「ちがうところ」と「にているところ」を見つける活動を行うことで、外国の文化により親しみをもったり、自分たちの文化を振り返ったりすることができるようにする。

3 単元の目標

【知識及び技能】

- ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、進んで触れ合い交流しようとする。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさが分かっている。 ・相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できるよさや楽しさが分かっている。 ・相手や目的に応じて、様々な伝え方があることに気付いている。 ・伝え合う活動において、適切な挨拶や言葉遣いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に伝えるかを思い描きながら、伝えたいことを選んでいる。 ・相手や目的に応じて、伝え方を選んでいる。 ・これまでの体験を基に、相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活や地域の出来事を伝えたいという思いをもち、進んで触れ合い交流しようとしている。 ・相手の反応や状況に合わせて、多様な方法で伝えたいことや気持ちを表そうとしている。 ・身近な人々と関わることのよさや楽しさを実感し、多様な人々との関わりを自ら築いていこうとしている。

5 人権教育の視点

国際理解・異文化共生は、異なる文化や価値観を尊重し、多様な背景を持つ人々が平等に暮らせる社会を目指す考えである。授業を通じて、外国人と交流したり、外国について理解したりする活動から、他国の人々や文化に親しみ、相互理解への素地を養うことで、国籍や人種、宗教、言語などの偏見や誤解を減らし、互いを理解し合い、共に尊重し合う社会の実現につなげていきたい。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・身近な人との語学に関する交流を通して、中国語や中国の文化に関心をもち、進んで触れ合い交流しようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の評価規準

- ・身近な人との語学に関する交流を通して、中国語や中国の文化に関心をもち、進んで触れ合い交流しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 準備物

- ・中国地図
- ・文字カード（じゃんけん・自己紹介の言い方）
- ・自己紹介カード（1人5枚）

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 人権教育の視点	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	<p>1 中国語でじゃんけんゲームをする。</p> <p>石头 シート (ゲー) 剪子 ジェンズ (チョキ) 布 ブー (パー)</p>	○文字カードを提示し、前時に学習したことをふり返られるようにする。	
中国語であいさつをしよう			
展開 (35分)	<p>2 地域の公民館のことを思い出して、語学の勉強会があることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故郷のことを知るために学習していること ・中国語や文化について勉強するためにたくさんの友だちが集まること <p>3 中国語であいさつと自己紹介の言い方を知る。</p> <p>你好 (こんにちは) 我叫 ○○ (わたしは○○といいます) 请多关照 (どうぞよろしくお願いします)</p> <p>4 あいさつゲームをする。</p> <p><ルール></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出会った相手と握手をした 	<p>○<u>町たんけんで訪れた公民館の写真や勉強会の様子を提示しながら、中国に興味のある人は参加できることを伝える。</u></p> <p>○発音の練習をする。</p> <p>○<u>日本語に丁寧な話し方があるように、中国語にも丁寧な話し方があることを説明し、相手を敬おうとする気持ちは同じということ伝える。</u></p> <p>○楽しみながら参加できるよう配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔やジェスチャー (握手) を交え 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人との語学に関する交流を通して、中国語や中国の文化に関心をもち、

	<p>後、中国語で自己紹介をし合い、お互いのカードを交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語でじゃんけんをした後ハイタッチをして別れ、次の友だちと繰り返す。 	<p><u>ることで、より親しみやすくなることを伝える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> デモンストレーションを行い、見通しをもてるようにする。 	<p>進んで触れ合い交流しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 (行動観察)</p>
まとめ (5分)	<p>5 感想を伝え合い、発表する。</p> <p>○この後実際に、地域に住む中国籍の人と交流することを伝える。</p>	<p>○<u>中国語でのあいさつに関する気付きから、他国のあいさつにもふれ、互いの違いを認めることができるようにする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が伝えることができるよう、ペアで話し合う。 <p>○食べ物や衣服など、その他の外国の文化について話し、外国の文化についての興味を引き出す。</p>	



(9) 犯罪被害者 <高等学校 保健体育>

◆指導事例（第1学年 保健体育）

交通事故における加害者が果たすべき責任について考えよう

〈教育課程上の位置付け〉

保健体育 (2) 安全な社会生活 (ア) 安全な社会づくり ㊦交通安全

1 単元について

本単元では、交通事故防止における個人の取組と交通環境の整備について理解し、自他の生命の尊重という視点を踏まえて、交通事故において生じる法的責任や補償について学ぶ。

本時では、運転者が負う3つの法的責任の理解にとどまらず、交通事故被害者遺族の手記を通して、事故が被害者やその家族の人生、そして尊厳をいかに深く傷つけるものであるかを多角的に考察する。法的な責任を果たすことの真の意味や、加害者として生涯背負うべき責任について学習を展開することで、将来の運転者としての規範意識と当事者意識を確立する。

2 本時のねらい

- ・交通事故における運転者の責任と被害者やその家族の人権について、安全に関する原則や概念に着目して、事故が自他に与える影響や、責任を果たすことの意味を考え、それらを表現する。

3 評価の視点

- ・交通事故における運転者の責任と被害者やその家族の人権について、安全に関する原則や概念に着目して、事故が自他に与える影響や、責任を果たすことの意味を考え、それらを表現している。

4 人権教育の視点

交通事故を単なる「不運な出来事」や「法令違反」として捉えるのではなく、他者の生存権や幸福追求権を著しく侵害する「重大な人権侵害」として認識させたい。将来の運転者として、交通ルールを遵守することが「自分を守るため」だけでなく、「他者の人権と大切な日常を守るための責任ある行動」とであるという当事者意識を確立する。



	学習活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)	評価の視点
導入 (5分)	1 昨今の交通事故に関するデータやニュースを見て、交通事故の現状を共有する。	○交通ルールを守ることやシートベルトなどを適切に着用することができていれば防げる可能性があった事故もあることなど、安全対策の視点を持てるようにする。	
	2 「もし自分が加害者になったらどう思うだろうか?」という問いについて考えている。	○ <u>自校の生徒の家庭的背景等に十分配慮して、問いを行う。</u>	
交通事故における加害者が果たすべき責任について考えよう			
展開 (40分)	3 運転者が負う「3つの責任(刑事上の責任、民事上の責任、行政上の責任)」や自動車損害賠償責任保険についてまとめる。	○民事上の責任を考えたときに、自動車損害賠償責任保険だけでなく、任意の自動車保険に加入しておくことの重要性についても、伝えておく。	
	4 「法的に責任(3つの責任)を果たせば、それで全てが解決されたと言えるか」という問いについて考え、意見をペアで共有する。	○「もし被害者があなたにとっての大事な人だったとしたら、法的な責任を果たしただけで納得できるだろうか」という視点で生徒たちの思考に働きかける。	
	5 交通事故遺族の手記(参考:高知県安全教育プログラム第4章)を読んで、被害者遺族の思いに触れる。	○ <u>遺族をかわいそうな存在として捉えるのではなく、長く続く苦しみと向き合いながらも社会に対して働きかけを行う存在として捉えるよう伝え方に配慮する。</u>	
6 「責任を果たす」とはどうか、考える。 個人思考→グループ討議	○「加害者が一生背負うもの」と「被害者が失ったもの」という視点を持ち、議論を行えるように助言する。 ○「 <u>加害者が SNS で非難され続ける</u> 」「 <u>加害者側にも落ち度があったかのような憶測や中傷が広まる</u> 」といった視点も伝える。	・交通事故における運転者の責任と被害者やその家族の人権について、安全に関する原則や概念に着目して、事故が自他に与える影響や、責任を果たすことの意味を考え、それらを表現している。	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ (5分)</p>	<p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○<u>将来、運転免許を取得する可能性を持つ者として、どのような心構えを持つべきかという視点で振り返ることができるようにする。</u></p> <p>○<u>交通ルールを遵守することが「自分を守るため」だけでなく、「他人の人権と大切な日常を守るための責任ある行動」であるという当事者意識につながっていることが望ましい。</u></p>	
---	----------------------	--	--

6 参考資料

高知県安全教育プログラム（第4章）



(10) インターネットによる人権侵害 <中学校 特別活動>

◆指導事例（第2学年 学級活動）

1 題材

インターネットによる人権侵害

活動内容（2）エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

2 題材設定の理由

昨今スマートフォンの普及に伴い、SNS やチャットでコミュニケーションをとる中で、過度に利用し依存に陥り、人間関係のトラブルに発展してしまう事例を目にする機会が増えてきた。実際「チャット上ではすぐに返信しないといけない」「SNS の投稿にはすぐにリアクションをしないといけない」といった思いをもっている生徒も少なくない。そのような生徒たちの過度な利用による生活習慣の乱れや人間関係のトラブルに発展するケースは後を絶たない。

また、SNS 上で面識のない相手と安易に繋がったり、画像や動画を軽率に共有したりするなど、リベンジポルノを含む深刻な性被害や犯罪に巻き込まれるリスクも深刻化している。さらに、一度流出したデータは完全に消去することが困難である（デジタルタトゥー）というインターネットの「拡散性」「公開性」「記録性」について、生徒の危機意識は依然として十分とは言えない。

本時では、友人関係の綻びから恥ずかしい写真が SNS 上に流出するという、身近に起こり得る事例を扱う。トラブルを「自分事」として捉えられるようにしていくことで、事態を深刻化させるネットの特性を正しく理解できるようにしたい。さらに、トラブルに直面した際の適切な判断力（危険予測）を養うとともに、情報の先にいる他者への共感や権利の尊重といった、情報モラルの基盤となる資質・能力の育成を図る。

3 指導観【省略】

4 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。 多様な意見をもとに自ら意思決定して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。 他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。 自他の健康で安全な生活を構築しようとしている。

5 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿（評価方法）
自己の生活上の課題の改善に向けて、インターネット、SNS等の利用状況のアンケートに回答する。	自身のインターネット、SNS等の利用状況について、改めて意識できるようにする。	アンケートを記入し、これまでのインターネットやSNSの使い方について考えている。 【思考・判断・表現】 (アンケート)

6 人権教育の視点

インターネットやSNS等の利用について人権侵害となる状況について把握し、互いの立場や気持ちを大切にしたい利用の仕方を話し合うことにより、人権を尊重したコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度を育む。

7 本時のねらい

互いを尊重し、安心してインターネットやSNS等を利用するために必要なことと、よりよい人間関係を形成するための活用のあり方について考える。

8 本時の展開

	生徒の活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)	目指す生徒の姿 (評価方法)
導入 (つかむ) 5分	1 事前アンケートの結果を確認する。	○アンケートの結果からインターネットやSNSの利便性についても意識できるようにしていく。 (<u>自律的な望ましい関わりにつなげたい。</u>)	
	2 インターネットトラブルに関する新聞記事を読み、問題をつかむ。	○ <u>新聞記事等を提示し、現在の日本で多発している問題やその深刻さを捉えられるようにする。</u>	
互いを尊重し、安心してインターネットやSNSを利用するために自分が気をつけることを考えよう			
展開 (さぐる)	3 SNSにまつわるトラブルに関する動画(参考動画例:「文部科学省/mextchannel 写真や動画が流出する怖さを知ろう(導入編)」を視聴して、事例の問題点を考える。(個人→グループ)	○ <u>ネットの特性(「拡散性」「公開性」「記録性」)に触れ、一度流出したものは「一生消えない(デジタルタトゥー)」という深刻さを捉えられるようにする。</u>	

(見つける) 40分	4 安心してインターネットやSNSを利用するために、何が必要なのかグループで話し合う。	○ <u>便利な機能の裏側には必ず「情報を受け取る他者」がいることをおさえ、他者と互いに尊重し合える利用のルールやマナーの必要性について留意できるようにする。</u> ○ <u>「禁止」ばかりに目を向けさせるのではなく、SNSの良さを活かしつつ「安全に楽しむための知恵」を出し合うポジティブな側面も捉えるように促す。</u>	・自己のインターネットやSNSの利用に関する課題を見だし、話し合っている。 【思考・判断・表現】 (観察・発言)
まとめ (決める) 5分	5 安心してインターネットやSNSを利用するために、これから自分が気をつけていきたいことについて決める。	○今日の活動で出た意見等を参考にして、「いつ、どこで、どうする」といった具体的で継続可能な内容を設定するように伝える。	・自分や他者の安全を守るためのインターネットやSNSの利用について、実践し続けていくために必要な方法について意志決定をしている。 【知識・技能】 (ワークシート)

9 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
意思決定したことを実践できたかを、1か月後の再検討会の時間に確認する。	意思決定したことを実践することの大切さについて、(個に応じた)助言を行う。	自他の安全で健康な生活を維持するために、決めたルールを継続して守ろうとしている。 【主体的態度】 (発言・ワークシート)

10 その他

(1) 事前アンケート (例)

インターネットやSNSの利用についてのアンケート

- 1 インターネットを活用していますか？
 している していない
- 2 SNSは便利だと思いますか？
 思う 思わない
- 3 SNSやインターネットでトラブルに巻き込まれたことはありますか？
 ある ない
- 4 3であると答えた人はどのようなトラブルか書いてください。(自由記述)
- 5 SNSやインターネットを使うときに気を付けていることはありますか？(自由記述)

(2) 参考資料

「学校文化を創る特別活動 中学校・高等学校編」国立教育政策研究所 教育課程研究センター (令和5年)

(11) 災害と人権 <高等学校 外国語>

◆指導事例（第1学年 論理・表現Ⅰ）

1 単元名

Lesson 8 Ready for Disasters

2 単元について

本単元は、台風大国である日本の地域社会において、言語や文化の異なる外国の人が災害時に直面する困難を想像し、共生社会の担い手として自分たちにできる情報発信について考えることができる単元である。

教科書で災害時の実態を読み取り、そこで得た知識と動名詞・不定詞を活用して、ペアやグループでのやり取りを通して、より伝わりやすく、配慮の行き届いたチラシを作成する活動を設定する。

本校が「CAN-DO リスト」の形で設定した学習到達目標の「日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて情報や考えを話して伝え合ったり、やり取りを通して情報を得たりすることができる」を指導する単元の一つとして位置づけている。

3 単元の目標

日常的な話題（台風への備え）について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、言語や文化の異なる外国の人に配慮した視点を踏まえて、情報や考えなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 情報や自分の考えを話し伝え合うために必要となる語彙や表現（動名詞、to不定詞（名詞的用法を含む）を理解している。 日常的な話題（台風への備え）についての情報や自分の考えを話し伝え合う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題（台風への備え）について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国人や外国にルーツのある人に配慮した視点を踏まえたうえで、情報や自分の考えを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題（台風への備え）について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国人や外国にルーツのある人に配慮した視点を踏まえたうえで、情報や自分の考えを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりしようとしている。

5 人権教育の視点

災害時においては、日常生活の中では見えにくい人権課題が顕在化するとされている、外国人や外国にルーツを持つ人々に対しても、避難時には、言語や文化、習慣等の違いといったことに配慮した関わりが必要とされる。

本単元における、災害への備えや発生時に必要なことについて情報や自分の考えを話す活動を通して、災害時において外国人や外国にルーツのある人々が体験する困りごと等について想像し、必要な情報を伝える工夫等について考えさせたい。

本単元の学習にあわせて、「やさしい日本語」についての資料を教室に掲示するなどして、言葉が、多様な背景を持つ人々と共生するための有効な手立てのひとつであることを意識させるとともに、災害時においても、異なる習慣や文化をもつ人々を尊重し、協調し合う態度を育みたい。

6 本時の指導（3／4時）

（1）本時の目標

- ・ペアやグループのなかでのやり取りを通して、より伝わりやすいチラシを作成するためのアイデアを、理由とともに伝えることができる。 【思考力・判断力・表現力等】

（2）本時の評価規準

- ・ペアやグループのなかでのやり取りを通して、より伝わりやすいチラシを作成するためのアイデアを、理由とともに伝えている。 【思考・判断・表現】
- ・ペアやグループのなかでのやり取りを通して、より伝わりやすいチラシを作成するためのアイデアを、理由とともに伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

（3）準備物

- ・教科書 ・タブレット ・ワークシート【紙・配信】
- ・作成用シート（白紙）【配信】 ・授業評価シート【配信】

（4）学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 (人権教育の視点)
導入 (5分)	1 Small talk ・台風に備えてどのような準備が必要かペアで話す。 2 本時の目標確認	○ <u>うなずきやあいづちといった相手の話を聞く態度を大切に</u> するよう促す。 ○ <u>外国人や外国にルーツがある人が</u> どういうところに <u>困るか</u> についても意識を向けさせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 高知県に住む外国の人に向けた台風対策の防災チラシを作成するために、ペアでアイデアや必要な情報について話し合いをしよう。 </div>		
展開 (40分)	3 台風に備えた準備について、教科書の表現を学習する。 ・完成した項目の読み方を全員で練習する。	○活動に役立ちそうな表現をメモするよう助言する。 ○読めない単語や表現がないように全体で確認する。

<p>展開 (40分)</p>	<p>4 ワークシートを参考に、地域に住む外国の人に配布するチラシに必要な情報をペアで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを手がかりとして、チラシに掲載する内容(イラスト等を含む)を個人で考える。必要に応じて、インターネットを活用して情報を収集する。 ・ワークシートにその内容が必要だと考える理由や気づいたことをメモする。 ・ペアで、自分のメモをもとに相手に説明しながら、やり取りの中で得たアイデアをタブレット上のワークシートにメモする。 ・お互いの内容のよいところを、理由とともに伝えながら、配信されたワークシート(白紙)にチラシを作成する。 ・別のペアと4人グループを作り、それぞれの改善した点や工夫した点を伝え合い、それぞれの作成案をについて内容をやり取りして共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高知県に住む外国の人が、どのようなことを心配に<u>思うか想像するよう促す。</u> ○言語の壁の他に文化や生活習慣の違いなども考えるよう促す。 ○教科書の Useful Expressions を参考にすることを伝える。 ○生徒の思いついた内容が英語で表現するのに難しい場合は、簡単な日本語に置き換えて考えるよう促す。 ○相手のアイデアのよいところを探しながら聞き、<u>伝えるよう促す。</u> ○高知県に住む外国の人が困る可能性のあるもので工夫した点があるか質問するよう促す。 ○やり取りの中で出てきたよいアイデアを付け加えていくよう伝える。 ○活動を繰り返させながら、よりよく相手に伝わるような工夫や改善点を意識しながらやり取りができるようにする。
<p>まとめ (5分)</p>	<p>5 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業で学んだことや、言いたかったけど言えなかった表現をワークシートに記録する。 ・授業評価シートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国の人にわかりやすいように配慮したチラシを作成するために、自分の意見や考えを理由とともに相手に伝えることができたかという観点で振り返りをする。 ○授業評価シートに記入させる。



Making A Disaster Prevention Flyer for Foreign Residents in Kochi



Hints for thinking

- What may happen during heavy rain or a typhoon?
 - Flood
 - Storm surge
 - Landslides

 - What should you do during heavy rain?
 - Keep away from rivers and the coast
 - Check the latest weather information
- * It is helpful to install disaster management applications(ex.*Kochi Bosai Apuri*).

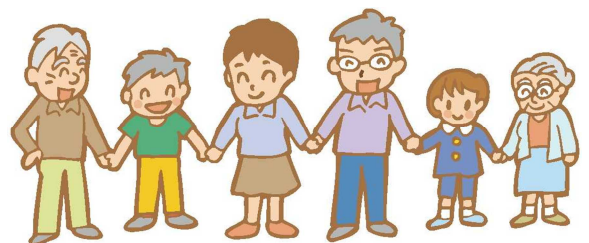


What is necessary to be well prepared in case of heavy rain or a typhoon?

- Where is the nearest shelter?

- Have you prepared items to bring out when you go to the shelter?
 - <Valuables> <Clothing> <Daily necessities> <Water and food>

- How will you contact your family or school?



(12) 性的指向・性自認 <小学校 体育(保健)>

◆指導事例(第4学年)

心の変化について知ろう

<教育課程上の位置づけ>

体の発育・発達 (イ) 思春期の体の変化 異性への関心

1 単元について

体の発育・発達については、その一般的な現象や思春期の体の変化などについて理解できるようにする必要がある。また、体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方について理解できるようにする必要がある。さらに、体の発育・発達に関する課題を見付け、よりよい解決に向けて考え、それを表現できるようにすることも必要である。そのため、本内容は、体が年齢に伴って変化すること、体の発育・発達には個人差があること、思春期になると体に変化が起こり、異性への関心も芽生えること、体の発育・発達には適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であることなどの知識と体の発育・発達に関する課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を中心として構成している。

本時では、性に関する基本的な知識について、主に異性への関心の芽生えについて理解できるようにする。さらに、これらは、個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることを理解できるようにする。また、「男の子らしさ」「女の子らしさ」だけでない多様なあり方があることを知り、社会の中にある固定的な思い込みや先入観に気付き、「自分らしく」生きることの素地を養う。

2 本時のねらい

・心は、いろいろな生活経験を通して、年齢とともに発達することを理解できるようにする。

3 評価の視点

・心は、いろいろな生活経験を通して年齢とともに発達することを理解している。

4 人権教育の視点

社会の中にある固定的な思い込みや先入観に気付き、「自分らしく」生きることの意義を理解する中で、価値観の多様性を認め、お互いを尊重しながら生活しようとする態度を養う。

また、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。

加えて、当該児童が教室にいる可能性があることを意識し、必要に応じて養護教諭やスクールカウンセラー等と連携しながら、複数で授業を行う。



	学習活動	指導上の留意点 人権教育の視点	評価の視点
導入 (5分)	1 成長には体の変化の他に心の変化もあることを知る。	○「心」からイメージすることを自由に意見を出すことで、心は抽象的なもの、多様なものであることに気付くようにする。	
心の変化について知ろう			
展開 (35分)	<p>2 イラスト図のような場面を経験をしたことや、見たり聞いたりしたことはないか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女に分かれて遊ぶ。 ・男女で意見が合わない。 ・異性のことが気になる。 ・異性に話しかける。 <p>3 多様な心の変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異性のことが気になることがある。 ・仲良くしたいと思ったり、逆に、反発し合ったりすることがある。 ・この心の変化の起こる時期や変化の仕方には個人差があり、このような感情ははずかしいことではない。 ・体の性と心の性が違う人がいる。 ・異性に関心がもてない人がいる。 <p>4 多様な性について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の性について、不安なことや心配なことがあれば、まずは信頼している大人に相談すればよい。 ・信頼できる大人は、学校では学級担任はもちろん、養護教諭やスクールカウンセラー等、身近にいる。 ・信頼できる大人が身近にいない時は、電話相談窓口でも相談できる。 	<p>○既習の思春期についてふれたり、クラスの実態に合わせたエピソードを出したりすることで、様々な気持ちの表現が出やすいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>プライバシーの観点から、個人名が出ないように配慮する。</u> <p>○<u>多様な心の変化について説明する。</u></p> <p>○<u>性について悩んだり、不思議に感じたりする人の説明をする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・性は「男」「女」とはっきりと決められるものではなく、全ては一人一人違っており、それは「自分らしさ」「その人らしさ」であることを伝える。 ・当該児童が教室にいる可能性があることを意識し、実態を把握しながら学習を進めていく。 <p>※養護教諭やスクールカウンセラー等と連携し、役割を分担しな</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心は、いろいろな生活経験を通して年齢とともに発達することを理解している。

		<p>がら進める。</p> <p>○多様な心の変化について、<u>悩みの解決方法を伝える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カミングアウトにつながる反応があった場合は、相手の気持ちを尊重した対応が必要であることを意識できるようにする。 <p>※養護教諭やスクールカウンセラー等と連携し、役割を分担しながら進める。</p> <p>○<u>だれに相談したらよいか分からない時や信頼できる大人が身近にいない時は、電話相談窓口で相談できることを伝える。</u></p>	
まとめ (5分)	5 本時の感想を書く。		

